



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	農業機械化の速度
Author(s)	渡辺, 侃
Citation	季刊農業経営研究, 2, 3-3
Issue Date	1956-07-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36247
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_3.pdf



・研究手帳・

農業機械化の 速度

渡 辺 侃

今から 60 年程前の明治 22 年の 2 月に、北海道庁第 2 部から出版した「北海道農業手引草」という小冊子に、農具を使うことが書いてあるが、それは一方、鋤鎌を使つて開拓する小農と、他方、馬力で動かす農具を使う大農との経営法をいつている。特に後者は、プラウ、ハローは勿論、モーター、リーパー、それからスレッシャーまでである。

スレッシャーの動力は「踏車〈トレッドミル〉」といい、馬 2 頭を傾斜無限廻転度につないで起すものであつて、実物は札幌農学校の農園にあつたものを見た事がある。動物虐待の甚だしきものであつた。

30 年程前、私は米国を旅行し、インターナショナル・ハーヴェスター会社で、コンバイン〈ハーベスター・スレッシャー〉をまだ少数作つているのを見たが、動力の牽引車〈トラクター〉はな^なが^なれ^な作^な業^なの増産に入つていた。大量の堅材を露天にさらし、1 年位置いて、狂わないようにし、それから削つて部分品を作り、組立てるものであつた。

即ち、第一次世界大戦時代を境にして、米国農業は機械化され、北海道農業はやつと所謂大農具を利用するようになったので、約 50 年のおくれがある。

尤も、畜力発動機の代りに、石油発動機が入り、それを車にのせ、その動力で歯を動かす日本式のトラクターが出ている。

最近、米・英・独から牽引車〈トラクター〉を輸入するようになり、十勝等で大分使っている。しかし、どうも経済的とはいえない。馬ならば数万円でまに合うところを、石油発電機で十数万、本当のトラクターに附属品をつければ百数十万となる。馬は最近「伝食」等にかかり安全でなく、飼料燕麦を作る土地が惜しい等の欠点があるが、万能的で草や藁を喰い、肥料を出すのでまだまだ経済的である。

農業が機械化するのに 50 年にかかるだろう。機械は大量生産すれば廉価になり得るだろう。機械を応用出来るように経営面積を大農化出来るか。農業人口を少くし能率を増進し、廉価な農産物を生産するような全機構の改革となる。農業人員の全人口に対する比率が印度や中国で 75 %、日本で 45 %、米国や欧米諸国で 25 %というのは、かかる進歩を示している。唯、そうなる経過が複雑で困難と思う。

コーリン・クラークが進歩の条件として第 1 次産業〈農林、水産及び鉱業〉が減じ、第 3 次産業〈商業、サービス業〉等が増加することをあげているが、それには第 1 次産業が能率をあげることが必要なのである。むしろ、第 2 次産業の工業及び建築業が発達して、やつとそれが出来るので、進歩の条件というよりは進歩の結果を考える方がよい。

私は 33 年位の一代〈ワン・ゼネレーション〉で進化があると

思うもので、第 1 次大戦後の日本における小型発動機の取入れが、それを車にのせた日本型トラクターまで進化をとげ、今後 33 年で本当のトラクターの取入が完成すると思う。

(北大教授農博)

北海道馬鈴薯 の始まり

高 倉 新 一 郎

北海道の名産、馬鈴薯が北海道で作られ始めたのは何時の頃からか。

多くの書物では、寛政年間北海道探険家として有名な最上徳内が、虻田で蝦夷に種薯を与えて作らせたのが最初だとしている。私も「新撰北海道史」第 2 巻通説 1 を編集した際、先人の説をそのまま採つておいた。ところが、この説の起源は、寛政 10 年、最上徳内が、同じく北海道の探険家として有名な、近藤重蔵に宛てた書状によつたものらしい。その書状には次の文言がある。

口 達 覚

1) アブタ蝦夷共江 相渡候^ごご^ごし^ごや^ご芋^ごの種は右の外何方の場所江 相渡候哉

1) 蝦夷共江 種物相渡候儀差留候儀有之候哉

御 答 書

1) アブタ蝦夷共江 相渡候^ごご^ごし^ごや^ご芋^ごの種相渡候哉御尋御座候、定而通詞・番人共芋種致持参自分食用にも作り、蝦夷共へも為作候事に奉存候

1) 種物相渡候儀差留の事も